

沖縄の基地「全国の問題」

銀座市民ら、連帯訴え行進

建白書10年

2013年1月28日、県内の全41市町村長や議会議長らが署名した「建白書」を携えて総勢約1500人の超党派の要請団が上京し、米軍輸送機オスプレイの配備撤回や普天間飛行場の県内移設断念を政府に直接要請した。あれから10年、東京・銀座の通りでは当時と同じコースを市民がデモ行進し、民意を無視して沖縄に基地が押し付けられる現実を全国の問題として向き合うよう訴えた。南西諸島の軍事要塞化で再び戦争に巻き込まれる恐れが強まる中、当時の関係者は県民がもう一度「島ぐるみ」でまとまる重要性を訴えた。



「辺野古新基地建設断念」の横断幕を掲げ、10年前と同じコースでデモ行進する市民ら。27日、東京都・銀座

「豊かな海に基地を造るな」。ネオンがきらめき、多くの人が行き交う夕暮れの銀座に、県民らの悲痛な思いがこもったシユプレヒコールが響いた。米軍普天間飛行場の県内移設断念などを求める「建白書」提出から10年の節目を前にした27日、再び県民の声を届けようと記念集会に参加した市民らが寒空の中でデモ行進した。10年前に心ない野次や罵声の飛び交ったコースを歩いたが、

(1面に関連)

大きな混乱や妨害はなく、参加者は通行人らに「連帯しよう」と呼び掛けた。

デモ隊は日比谷野外音楽堂での集会を終えた午後7時45分ごろから会場を出発し、長い列を作つて銀座を目指した。先頭に立つ市民が「沖縄の民意を日本の民意に」と大書された幕を手に、「戦争のための基地はいらない」などと声を上げた。

デモに参加した「基地のない平和な沖縄をめざす会」(東京都台東区)の共同代表、長谷部洋子さん(埼玉県川口市)は石川市(現うるま市)で生まれ那覇で育った。上京して約40年。「政府はユクサー(嘘つき)」と批判する。先島では自衛隊配備が進み、政府の唱える基地負担の軽減から一層遠くの現状に「心が痛む。ちむぐりさです」と唇を噛んだ。

集会のリレートークでは、関東在住で宜野湾市出身の明有希子さんが登壇した。2017年に米軍機の部品が落下した同市の緑ヶ丘保育園に娘を通わせていた明さんは、米軍機が飛ばない都内の空を見上げるたびに「どうして沖縄にばかり負担を押しつけるのか」と怒

りがわくという。「将来大人になった彼女(娘)に違う風景を見せたい」と米軍による被害のない沖縄の実現を願った。ルポライターの鎌田慧さんは、辺野古新基地建設を推進する安倍、菅、岸田政権を「ホップ、ステップ、ジャンプで地獄へ落ちようとしている」と批判。大学院生の元山仁士郎さんは、「辺野古の新基地建設に対する政府の姿勢には絶望感すら感じる」とし、「沖縄の基地問題を活発に議論するため国会請願の取り組みに協力を」と呼び掛けた。

(安里洋輔、斎藤学)

日米

来月から

【東京】

27日、2月12日まで在沖の日米共同訓練・フィストプ、発表し海兵隊がキャセンなどで離を訓練する。つた離着陸やも予定されているハンセンでは人員を投入する「や陸上戦闘画する。海兵隊

県民の思い生きています

建白書取りまとめ 喜納昌春氏

2013年当時に県議会議長だった喜納昌春氏(75)は、オスプレイ配備に反対する県民大会実行委員会の共同代表の一人として、建白書の取りまとめに携わつ

た。「建白書を打ち倒すものは10年たった今も出ておらず、建白書は生きています」と強調した。一方、対中国を念頭にした防衛力強化が県内で続き、有事に巻き込まれかねないとの懸念が強まる中「県民の命と暮らしを守る、新たな『オール沖縄』が求められる」と訴える。

建白書は12年9月のオスプレイ配備に反対する県民大会が発端だ。オスプレイの安全性を巡る問題が指摘

継承し、新たな結束を

されたことに加え、が増強されることで、の軍事拠点化が進むの党派を超えた危機感をつた」と振り返つた。建白書から10年。島の市部では保守多々を独占する一方、昨事選では「建白書」を訴える玉城デニーを選じた。「県だけは戦争ノ地強化もノと言えないと沖縄がもたない多くの人が感じて話し、建白書の訴え多くの人に共有されとみる。



建白書の今日的意義を語る喜納昌春氏 27日、西原町